

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット4階)

事業所番号	2799400011		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	大阪城南ケアセンター そよ風		
所在地	大阪府大阪市中央区森ノ宮中央2-5-3		
自己評価作成日	平成30年5月1日	評価結果市町村受理日	平成30年7月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	平成30年5月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>その人その人にあった支援を考え家族様に相談を持ち利用者様がイキイキとした生活が出来る様支援しています。職員みなが利用者様の状況を把握し恵まれた立地条件の中で健康管理に努め毎日が楽しく生活できる様寄り添い進めています</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は建物の4・5階にあり見晴らしも良く市内の中心に位置しており、大阪城に近く周りは緑が多くショッピングモールも隣接しておりロケーションは申し分ない。開所当初より自治会とは良好な関係が築かれていて、夏祭りや敬老会・地域防災訓練に参加し交流を続けている。理念を「笑顔のある暮らしを大切に」として、利用者にも笑顔でいてもらうには職員も笑顔でありたいと答えており、その人に合った一人ひとりの動きを受け入れ、家族と一緒に考えていきいきと生活していただきたいと、管理者・職員は担当を決め利用者へ寄り添ったケアを目指している。季節行事で家族と一緒に神戸フルーツフラワーパークに出かけていましたが、利用者のADL低下に伴い今期は大衆演芸の訪問の計画を立てていて、事業所内で楽しめるような工夫に努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に見える所に提示しており職員全員が意識し、共有できるように努めている。理念を実践し職員も努めている	玄関に「笑顔のある暮らしを大切に」と事業所の理念を掲げており、実践に繋げるよう毎日手を取る書類の表紙に貼っている。グループホーム会議でも話し合っている。	作成された理念は、職員はもとより地域密着を意識され、広く来訪者にも目につくところに掲示され、実践に繋がられる事が望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会や防災訓練等、地域行事に参加している。	自治会に加入し、盆踊りや敬老会等、地域行事に参加して良好な地域交流をしている。近くの保育園や高等学校の訪問を受け音楽演奏を楽しんでいる。中学生の職業体験の受け入れをしていて、近所の美容院や喫茶店にも出向いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催。会議には地域自治会の副会長も参加され、当施設の利用者様(認知症)の現状もお伝えさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催。会議では、当施設の現状報告を行い、また家族様とも意見交換を行っている。	2か月に1回自、治会長・民生委員・地域包括センター職員・家族・職員が参加して開催されている。事業所の現況報告や新人職員の紹介をしていて、情報を得たり意見や要望を聞いて運営に活かすようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	北部包括センター担当者と2ヶ月に1回、地域連絡会議にて意見交換を行っている。	介護保険課に事業所での困り事や分からないことをその都度電話や訪問して意見を聞いている。地域の連絡会議に参加し情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、絶対に行わないことを常々、職員全員に周知徹底している。リーダー会議の中でも、各フロアで身体拘束が行われていないか施設長から確認されている。	法人や事業所の会議で身体拘束への弊害を話し合う機会を設けてあり、具体的な例を出してより分かりやすく説明している。玄関は安全上施錠されているが、外出したいしぐさが見られた時は少し散歩に出かけ、閉塞感のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議の中で、虐待についての研修を行い、職員も虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の中には、介護福祉士も多く自主的に「日常生活自立支援事業や成年後見制度」について学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を読み上げ説明を行っている。家族様からの質問にも、回答している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入口に意見設置箱を設置している。運営推進会議でも、家族様と意見交換を行っている。	毎月そよかぜ通信や運営推進会議録を送り現況を報告している、家族の訪問時や電話で要望を聞いている。利用者とは日常会話の中で意見を聞きだし、居室担当制を設けより意見を聞けるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議にて、職員の意見や提案等をヒアリングしている。また、個別で意見を聞く場合もある。	毎月グループ会議・リーダー会議で話し合う機会を設けて運営に活かし、その都度聞くこともある。年1回管理者面談があり個別意見を聞いており、スキルアップの為の外部研修の支援体制も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人が仕事にやりがいを持てるよう係や担当を決め、実践。退社時間の遵守に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップのため、全体会議について、様々な研修を行っている。また、外部の研修も交代で受講できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回、地域連絡会にて地域包括支援センター職員や他事業所との意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前は、ケアマネからの情報を職員を周知し、入所後の生活にスムーズになじむことができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前は、家族様も不安や疑問点がたくさんあると思いますので、少しでも解消できるようお話を聞き対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ヒアリングすることで、正確にご要望を把握し、支援に努めている。また、他のサービスが必要となった場合は、情報収集し可能な範囲で行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、研修を行い、グループホームの意義と認知症の方の気持ち等についてよく理解してもらっている。一方的にならず共にあるケアとなるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と家族様の絆を大切にし、ご家族様と一緒に考え支援できるよう関係を築いていくべく努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、ご友人、近隣の方からの面会は、多少ある。面会に暫く来られない時は、こちらから電話をし働きかけを行っている。	家族や近所の友達・趣味の仲間が訪問してくれている。馴染みの美容院や喫茶店に出かけたり家族と外食に出かけている。年賀状や手紙のお手伝いをし、電話の取り次ぎもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事を企画し、利用者さん同士一緒に参加することで、関係づくりに努めている。また、お盆拭きや食器拭き等を手伝ってもらい、利用者同士会話をするなかで関係構築につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方へ、暫くは、面会をしご様子を見守るよう努めている。家族の方とは、お手紙を通して関係を継続することもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを大切にできる視点を持ち、アセスメントに努めている。すべてのご希望をお応えすることはできないが、できるだけご希望にお応えすべく努めている。	作成されたフェイスシートをもとに家族や利用者との話を聞き、日常の会話の中で思いを把握し利用者の思いに繋げるようにしている。新聞を購入している人や、ご利用者様2人で買物に出かけ、より思いを聞く機会を設けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、ケアマネや家族からご本人の性格や生活歴等の情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援をしながら、ご本人の様子、言動、心理面をよく観察し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員には支援をしながら観察を行ってもらい、計画作成担当者が職員にヒアリングを行い、課題の把握し、チームで実践している。状況に応じて、医師や家族等の関係者へ連絡、相談している。	家族や本人から聞き出し作成されたアセスメントシートを参考に、医師や関係者と連絡をとり担当者会議で話し合い介護計画書は作成されている。モニタリングで評価し初期は1カ月・基本は3カ月としているが変化があれば随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録とは別に、申し送りノートを作成。特変などを記入し、職員間で情報共有をしている。また、会議等で課題について議論し、支援につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通常の行事とは別に、個別外出レクを企画。居室担当が、利用者の行きたい所をヒアリングし、職員と利用者で外出と外食を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣小学校の盆踊りや地域の敬老会に参加し、地域交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回の往診により医療連携を図っている。専門外医療が必要な場合は、関係医療機関を紹介して頂いている。	契約時に本人や家族の意向で決めており、協力医の内科は月3回・歯科は毎週・皮膚科は随時往診を受ける事が出来る。精神科には家族や職員が付き添い受診に出かけ適切な支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の往診に来て頂き、利用者様の健康状態を見て頂いている。訪問看護の営業時間外には、緊急の電話にかけると指示がもらえる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、情報交換を行っている。また、家族様とも連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人と家族様に終末期についての意向を確認したうえ、希望に添えるように医療との連携を図っている。	契約時に本人や家族に説明し同意を得ており、状況に変化があれば主治医や関係者と連携し確認し、書類を作成して支援体制に取り組んでいる。職員は今までに多数の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社後すぐに社内研修で、急変や事故の対応方法を学んでいる。事故や救急搬送が起こった場合は後日、事故報告書を回覧し、対応方法について学んでいる(過去の事例の対応について学ぶ)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	社内にて防災訓練を行っている。また、全体会議の中で、非常災害についての研修を行っている。	マニュアルを作成し年2回消防所立会いで避難訓練を実施している。区の防災訓練にも参加している。行政の福祉避難場所の要請が来ている。非常物品として水・缶詰・お米が用意されている。	年2回の避難訓練は実施されていますが、日頃よりミニ訓練を実施されたり近隣住民に訓練の参加を呼びかけられ、協力体制を築かれていくことが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した声掛けや介助を行っている。	法人のマニュアルを用い接遇の研修を実施しており、人生の先輩として一人ひとりを大切に言葉かけに気を付けている。トイレ介助時には羞恥心に配慮して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、会話し利用者様の思いを伺い、実現できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを尊重し、できるだけ希望にそえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月に1回、訪問理容の利用をしている。外出行事では、お化粧品とお洒落な服を着て、出掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1ヶ月に1回、料理レクを行い、利用者様に食事を楽しんでもらっている。 1ヶ月に2回、調理専属のパートさんに来て頂き、豪華な家庭料理を提供し楽しんでもらっている。 盛り付けの一部や片付を利用者様に手伝ってもらっている。	栄養管理されたメニューを食材業者より購入し食事担当者が調理し提供している。土日は事業所で買い出し調理し職員も皆とテーブルを囲み会話を楽しんできて、好みを聞いたり味付けに工夫をして提供するようにしている。家族と外食に出かけている人もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の食事形態に合わせ、食事を提供している。食事量が少ない場合は、栄養補給飲料や栄養補給ゼリーで補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。また、訪問歯科に毎週往診にきてもらい、口腔内のチェックやケアを行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様個人個人の排泄パターンが、異なっているので。十分なアセスメントを行い、個別に支援を行っている。	布パンにパットなどその人に合った対応パターンを把握して、声かけをしてトイレでの排泄の誘導をしている。夜間は定時交換をする人やポータブルを使用する等その人に合った支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、便秘気味の方は、ヨーグルトや乳製品の提供や、水分量を調整し提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間や入浴日は決まっているため、希望通りには、行えていない状況である。	週2回を基本にしているが、毎日の入浴は可能であるが、拒否する人には声かけや時間の工夫をし、清潔保持に努めている。入浴剤や、ゆず湯・しょうぶ湯等で楽しい入浴ができるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に休息したいと訴えのある場合は、居室で休んでもらっている。夜間の就寝時間は、遅く眠りたい方は自由にしてもらい、好きな時間に眠ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬取扱いファイルに、処方箋に入れ管理している。職員各自で、ファイルを見て、習熟に努めている。薬の変更があった場合は、申し送りノートへ記入し、情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いの好きな方、ピアノの演奏、散歩等、利用者様の好みを会話の中で、役割を見つけ支援につなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じてもらえるように近くの公園まで散歩をしたり、おやつのお菓子の購入のためスーパーへ買い物へ出掛けている。時折、喫茶店へ行きコーヒーと一緒に飲み、ゆっくりとした時間を楽しんでもらっている。	毎日散歩を基本としていて近くの公園やショッピングモールに出かけ、おやつを買ったり喫茶店に行ったりしている。年間行事で家族と一緒に神戸のフルーツフラワーに出かけている。家族と出かけている人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理できる人は、自己管理してもらっている。スーパーへ一緒に出掛けた時にキャラメルを買われていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人宛の手紙は、お渡ししたり、了承を得たうえで、代わりに職員が読みあげる支援を行っている。本人が強く訴えられた場合は、職員が電話し、家族と会話して頂くようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、職員が清掃し清潔保持に努めている。快適な空間となるよう換気、温度調節に努めている。季節感をとり入れ、利用者様と職員の合作のカレンダーを毎月作成している。	ユニットは建物の4・5階にあり見晴らし良く、窓からは生駒の山並みが見渡せ、リビングは広く食卓テーブルや3点セットの椅子が置かれていたり、エレクトーンの演奏を楽しむ事も出来居心地良い。壁にはカレンダーやこいのぼり等季節の作品を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも、入口等にテーブルとイスが設置しており、利用者様同士で自由にお話したり、一人でくつろぐことのできる居場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な範囲で皆様、なじみの物を居室に置かれ、本人の居心地の良い空間として使用されている。	居室入口に顔写真を張り分かりやすくしている。ベッド・クローゼットが用意されていて写真やカレンダーを貼り、タンスやテレビ等使い慣れた家具を持ち込まれその人らしい部屋作りをしている。畳敷きをしている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部には、障害物となるような物は、極力置かないようにしている。全居室の横に、本人の名前と顔写真を掲げ、部屋を間違えないよう配慮している。		